

## 学校評価について (中間評価)

初秋の候、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
 さて、7月にお願いました保護者アンケートにつきましては894名(児童数分)の方から回答をいただきました。これは、児童数の約87%にあたります。学校に対する皆様の関心や期待の高さを感じ、大変ありがたく思っております。同時期に児童、教員にも同様のアンケートを行い、学校評価の自己評価として下表のようにまとめました。結果を十分に吟味し、これからの取り組みに生かしたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解とご協力をお願いしたいと思います。

児童アンケート	1年	2年	低学年			
	151人	156人	307人			
	3年	4年	5年	6年	高学年	総計
	194人	172人	157人	175人	698人	1005人

保護者アンケート	回答数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	割合	140人	143人	173人	145人	144人	149人	894人
		89.7%	91.7%	86.9%	82.4%	90.6%	84.2%	87.4%

	低学年(1.2年)	高学年(3~6年)
		保護者
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

領域	学力の向上														
短期経営目標	国語・算数の基礎基本の定着														
	低学年児童		高学年児童		低学年児童		高学年児童		保護者		教員		教員		
	かん字(1年ひらがなのべんきょうをがんばって、ならったかん字(1年ひらがな)は、ほとんどおぼえた。		漢字や言葉の学習をがんばり、習った漢字は、ほとんどおぼえた。		算数のべんきょうがよくわかり、じぶんのかんがえをかいり発表したりすることができた。		算数の勉強がよく分かったり、自分の考えを書いたり発表したりすることができた。		学校は、国語、算数の基礎学力づくりに努力している。		国語科では、「言語事項」の指導を計画的に行い、児童に言葉や漢字の力がついてきている。		算数科では、指導の工夫により、児童が自分の考えを持つことができるようになってきている。		
A	219人	71.6%	292人	41.6%	188人	61.4%	312人	44.8%	508人	56.0%	4人	13.3%	4人	13.3%	
B	B1	80人	26.1%	316人	45.0%	94人	30.7%	257人	36.9%	341人	37.6%	24人	80.0%	24人	80.0%
	B2			85人	12.1%			119人	17.1%	42人	4.6%	2人	6.7%	2人	6.7%
C	7人	2.3%	9人	1.3%	24人	7.8%	9人	1.3%	16人	1.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	
評価および今後の取り組み	昨年度と比較してみると 国語科・算数科については、児童の評価は、昨年同様高い評価を示していると言える。しかし、保護者の評価については、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の評価が若干増えている。今後、基礎学力の底上げをしっかりと意識した取り組みについて保護者への周知をはかっていくことも必要と考える。学年内で計画的に進められるよう再度検討する必要がある。														

領域	豊かな人間性の育成																	
短期経営目標	あいさつの習慣づくり 安全できれいな学校 安全できれいな学校																	
	低学年児童		高学年児童		保護者		教員		低学年児童		高学年児童		教員					
	「ふれあいの日」を中心に、すすんであいさつをすることができた。		「ふれあいの日」を中心に、すすんであいさつができた。		子どもたちは、すすんであいさつをしている。		児童と教職員が相互にすすんであいさつをしている。		そうじやそうじ道具のかたづけができた。		そうじやそうじ道具の片づけができた。		学校は、きれいに清掃がされている。		清掃および清掃用具の整理整頓にかかわる指導・確認を行った。			
A	222人	73.0%	406人	58.2%	277人	31.2%	10人	32.3%	254人	83.0%	432人	62.2%	410人	45.8%	19人	63.3%		
B	B1	63人	20.7%	203人	29.1%	450人	50.6%	17人	54.8%	47人	15.4%	223人	32.1%	422人	47.1%	11人	36.7%	
	B2			74人	10.6%	150人	16.9%	2人	6.5%			37人	5.3%	59人	6.6%	0人	0.0%	
C	19人	6.3%	14人	2.0%	12人	1.3%	2人	6.5%	5人	1.6%	3人	0.4%	5人	0.6%	0人	0.0%		
評価および今後の取り組み	8~9割が肯定的な評価であり、おおむね良好である。A評価を見ると、児童に比べ保護者・教員の評価が低い。子どもがあいさつをするのを待つのではなく、大人のほうから積極的にあいさつ・声かけを行っていくことが必要である。						9割を超える肯定的な評価であり、意欲的に取り組んでいる様子が分かる。保護者の評価の中でC評価が若干見られる。足りないと感じているのはどのあたりなのかをつかみ、取り組みたい。						8~9割が肯定的な評価であり、おおむね良好である。光の庭では、鉢植えを置くなど走らない環境づくりを行った結果、以前よりも安全に過ごせるようになった。こうした教訓に学び、環境整備に努めたい。また、安全について理解できていないはずの高学年児童のA評価が低く、委員会や学級会など、児童の主體的な取り組みを促していきたい。					

領域	健康体力向上																					
短期経営目標	わかる・できる・のびる 体育授業						体力の向上						体力の向上									
	低学年児童		高学年児童		教員		低学年児童		高学年児童		保護者		教員		低学年児童		高学年児童		保護者		教員	
	体育のべんきょうでは、友だちとたのしくうんどうすることができた。		体育の時間では、運動することの楽しさを感じることができた。		体育科では、運動の認識に重点を置いた指導を行い、児童が体育の楽しさを感じている。		「しん体力テスト」で、じぶんの体力や、うんどうする力をしることができた。		「新体力テスト」で、自分の体力や、運動能力を知ることができた。		子どもは、「新体力テスト」を行ったり、「わたしたちの体育」を活用したりすることによって、運動に関心を持って取り組もうとしている。		新体力テストの結果を児童に伝え、課題を明らかにさせることができています。		すすんで外であそんだり、うんどうしたりすることができた。		すすんで外で遊んだり、運動したりすることができた。		自分の子どもは、外で遊んだり、運動したりすることが好きである。		うんどうカード、体力ドリルを活用したり、外遊びや運動を促したりした。	
A	265人	86.6%	507人	72.7%	9人	30.0%	242人	79.1%	555人	79.5%	423人	45.9%	21人	70.0%	224人	61.7%	408人	58.7%	575人	64.5%	24人	80.0%
B	B1		B2		C		B1		B2		C		B1		B2		C		B1		B2	
B1	40人	13.1%	143人	20.5%	20人	66.7%	56人	18.3%	124人	17.8%	375人	40.7%	7人	23.3%	86人	23.7%	175人	25.2%	220人	24.7%	5人	16.7%
B2			35人	5.0%	1人	3.3%			13人	1.9%	92人	10.0%	2人	6.1%			83人	11.9%	85人	9.5%	1人	3.3%
C	1人	0.3%	12人	1.7%	0人	0.0%	8人	2.6%	6人	0.9%	31人	3.4%	0人	0.0%	38人	10.5%	29人	4.2%	12人	1.3%	0人	0.0%
評価および今後の取り組み	ほとんどの児童は、運動の楽しさを感じている。しかし、高学年において「あてはまらない」と答えた児童が約7%いる。後期には、校内研修も計画されており、「わかる・できる」体育に向けてさらに学年内で授業研究や研修を進める必要性を感じている。						新体力テストの結果を知ること、自分の体力や運動能力に約84%の関心を示している。新体力テストの結果を知らせることや「わたしたちの体育」の活用で児童が運動することに積極的になってきたと86.6%の保護者が感じている。ただ単に結果を伝えるだけでなく、課題の持たせ方や評価の仕方について工夫することでさらに児童の興味関心は高まり、積極的に運動に取り組むようになると考える。						うんどうカードや体力ドリル、きらきらタイムや教師の働きかけなどにより約84%の児童が外遊びをしたり運動に関心をもったりしている。本年度、なわとびジャンプ台を3台から6台に増やしたことや長縄を全学級に配付したことで外遊びが増えたと考えられる。本校は児童数の割りに運動場が狭いので、場所の使い方の工夫や環境整備がまだまだ必要である。									

領域	まちぐるみ教育の推進												学校教育全般														
短期経営目標	人材の活用			情報公開			児童(全学年)			保護者			教員			低学年児童		高学年児童		保護者							
	学校支援ボランティアを活用した学習に積極的に取り組んでいる。			学校のWebページをよく見た。			参観日等に掲示されている学年のWebページの紹介をよく見た。			学校のWebページの学年のページを予定通り(2回)更新し、参観日等にその内容を掲示した。			地いきでおこなわれている行事にさんかし参加している。			子どもが地域行事に参加している。			地域行事への参加を積極的に呼びかけた。			学校は、たのしい。		学校は、楽しい。		子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	
A	3学年	50.0%	61人	7.0%	99人	11.3%	4学年	66.7%	549人	55.1%	557人	62.7%	8人	26.7%	236人	76.9%	448人	64.2%	596人	66.7%							
B	B1		B2		C		B1		B2		C		B1		B2		C		B1		B2						
B1	1学年	16.7%	159人	18.3%	218人	24.8%	0学年	0.0%	271人	27.2%	233人	26.2%	22人	73.3%	62人	20.2%	199人	28.5%	251人	28.1%							
B2	1学年	16.7%	323人	37.2%	306人	34.9%	1学年	16.7%			0人	0.0%					42人	6.0%	44人	4.9%							
C	1学年	16.7%	325人	37.4%	255人	29.0%	1学年	16.7%	176人	17.7%	98人	11.0%	0人	0.0%	9人	2.9%	9人	1.3%	3人	0.3%							
評価および今後の取り組み	現時点での取り組みの成果が低いのは、支援者を必要とする学習が後期の単元に多いからである。これからは年間計画に基づき学習を進めていきたい。			Webページの閲覧状況はここ6ヶ月、1日平均約20回である。保護者のWebページの閲覧状況は家庭のインターネット環境にも影響されるので、今年は基本となるデータを得たいと考えている。学校での掲示や学年便り等でのPRを積極的に行い、Webを見ていただけるようなきっかけとしていきたい。			行事への参加の有無は家庭の事情にもよるが、学校での呼びかけによって「行ってみたい」という気持ちを持つ児童を増やすことにつながる。引き続き適宜、情報を提示していきたい。						学校が楽しいと感じている児童が低学年で約97%、高学年が約93%いる。9割以上の児童が「学校は楽しい」と感じている。また、保護者からも高い評価を得ている。少数ではあるが否定的な回答をした児童がいるという事実は、これからの仲間づくりや授業づくりの課題としていきたい。														

無回答、または、回答できない項目もあるため、合計人数は項目によって異なります。  
 人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため、合計が100%にならない場合があります。